

ツマグロアオカスミカメによるヒマワリ新葉の被害

[要約] ツマグロアオカスミカメがヒマワリに寄生・加害することにより、未展開葉上に黄色～黄褐色の小斑点を生じ、葉が展開するにつれて点～線状の小穴の被害となる。

総合農林試験場・環境部・病害虫科	専門	作物虫害	対象	花き類	分類	指導
------------------	----	------	----	-----	----	----

資料名：平成12年度普通作・野菜等病害虫試験成績書

[背景・ねらい]

平成9年頃より、西彼地域のハウス栽培ヒマワリにおいて、原因不明の新葉に穴が開く障害が発生し、その後、壱岐、諫早地域など県内各地で類似の障害が目立つようになった。そこで、その原因を究明し、防除に資する。

[成果の内容・特徴]

1. ツマグロアオカスミカメ *Apolygus spinolae*(MEYER-DUR)の成・幼虫をヒマワリ株に放飼、吸汁させると、約10日後には未展開葉上に黄色～黄褐色の小斑点を生じ、展葉するにつれて点～線状の小穴の被害となる。
2. 本種は光沢のある淡緑色で、成虫の体長は約5mm、若齢幼虫は約1mmである。生長点近くに寄生して吸汁加害するので、出蕾直前に加害されると、出荷時に被害葉が残り、商品性が低下する。本種による障害は4月から9月頃まで認められ、特に5～6月に多い。

[成果の活用面・留意点]

1. 本種は主に茶の害虫(旧和名：ウスミドリメクラガメ)として知られているが、ヒマワリへの加害確認はわが国で初めてである。このほか、スイカ、キュウリ、キク、ブドウ等を加害する。
2. 本種は雑食性で、圃場内外の雑草が発生源であると考えられるが、ヒマワリにおける詳しい発生生態については調査中である。
3. 近年、他県では本種に酷似するウスモンミドリカスミカメがキクを加害(症状：芯曲がり、芯止まり)することが確認されるなど、カスミカメムシ類による切り花への加害が増加しており、注意が必要である。

[具体的データ]



ツマグロアオカスミカメによる被害（再現株）



未展開葉の被害（拡大）



ヒマワリ株上の幼虫



成虫

写真 ツマグロアオカスミカメおよびその加害症状

[その他]

研究課題名：突発性障害に対する緊急対策

予算区分：県単

研究期間：平成12年度（昭和60年～）

研究担当者：小川恭弘

発表論文等：平成12年九州農業研究発表会